

## 歴史の道を歩いて学ぶ

市教育委員会は、11月23日、桑市周辺で「朝来歴史ふるさとウォーク」を開催しました。

ふるさとの歴史を身近に感じ、健康増進や世代間の交流をはかることを目的に行われ、約10歳のコースには109人が参加。コース途中には7か所のチェックポイントが設けられ、その場所の歴史に関するクイズが出題されました。

また、ゴール地点では、立脇ボランテイエアグループによる「あさご鍋」が振る舞われ、参加者は心も体も温めました。

## 教育講演会 明るい人生の送り方

11月28日、市生涯学習推進員連絡協議会と市教育委員会は、和田山ジュピターホールで教育講演会を開催しました。テレビ時代劇「水戸黄門」でうっかり八兵衛役として活躍した、俳優で歌手の高橋元太郎さんが、「人生は出逢い、ふれあい、支え合い」と題して講演。水戸黄門のテーマ曲で登場すると会場から大きな拍手が沸き起こりました。

高橋さんは、「感謝の気持ちをお忘れず、明るい気持ちを持ち続ける事が大切」と、歌やユーモアを交えながら話しました。



チェックポイントでクイズに挑戦



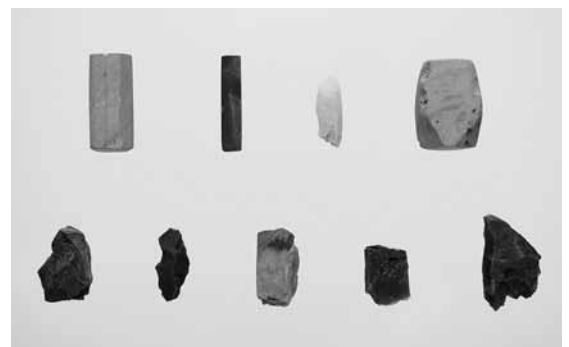
歌いながら客席を回り、会場は盛り上がりました

灰岩については、いずれの石材も遺跡周辺で産出するものではなく、最も近いと考えられるところでは生野層群中にある多々良木から生野にかけての地域で産出するものですし、また碧玉であれば、材質の分析結果から豊岡市日高町で産出する猪爪・辻碧玉鉱床帯（通称玉谷）のものであることがわかりました。

これら他地域の碧玉や凝灰岩が宮ノ本遺跡に運ばれ、ここで集中して一括的に玉製作が行われたと仮定するならば、玉製品を円山川上流域の各集団へ供給するためのセンター的役割を果たした中核的集落としての役割を果たしていた可能性も考えられます。後の古墳時代には、城ノ山古墳や池田古墳といった地域首長を越えた支配者の墓が構築され



宮ノ本遺跡の全景



管玉の未製品など

る地域であることを考慮に入れると、宮ノ本遺跡の重要性は更に深まるといえるでしょう。

（市教育委員会社会教育課）  
※分銅形土製品：重さをはかる「てんびん」のおもり（分銅）の形に似ていることからこのように呼ばれています。使用方法はよくわかっていませんが、表面に人の顔が描かれている例から、お面として使用された可能性もあります。このお面をつけた人はおそらく農耕や自然の恵みに感謝するおまつりの主役となっていたことでしょう。